

氏名 下 野 國 夫

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 1091 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和 5 5 年 3 月 3 1 日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者
(学位規則第 5 条第 2 項該当)

学 位 論 文 題 目 実験油臭魚の病理組織学的研究

論 文 審 査 委 員 教授 小川 勝士 教授 緒方 正名 教授 大平 昌彦

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

原油・重油等の流出事故による水質汚濁が問題になっているが、これら原油及びその処理に使用する油処理剤が魚類に対してどのような病理組織学的影響を与えるかについての詳細についてはまだ明らかにされていない。

実験は魚類各臓器における原油及び油処理剤による病理組織学的変化を解明する目的でウナギを各々原油添加－・油処理剤添加－・原油＋油処理剤添加－水槽で 1 4 日間飼育後屠殺し、諸臓器の病理組織学的観察を行った。

観察結果、ウナギに対する原油の障害作用は主として急性の尿細管及び糸球体の壊死による腎障害として観察され、脾では溶血亢進像がみられたが、肝や他の臓器には殆ど変化がみられなかった。又、油処理剤そのものにも軽度ながら腎障害作用があり、更に油処理剤が原油と共存すると原油の生物学的障害作用が増強されるとするということが明らかとなった。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、原油、油処理剤（表面活性剤）並びにその両者の混合剤を添加した水槽中でウナギを飼育し、諸臓器の病理学的変化を検討して腎に変性、再生、溶血を示す所見を認め、特に混合剤に於て顕著な変化が起こることを明らかにしたものであるが、近年続発する重油流出事故による油臭魚の病態を指摘したものとして意義ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。